

「交野市総合防災マップ」の改訂にあたって

全国各地で毎年のように自然災害が発生しています。線状降水帯や前線の停滞に伴う豪雨により、河川の氾濫や土砂災害が発生し、大型の台風等による家屋損壊や倒木、停電など、その被害は激甚化しています。交野市においても、浸水や土砂災害による被害は過去にも発生しており、決して他人事ではありません。

また、今後30年以内に70～80%の確率で南海トラフ巨大地震が発生すると言われる中、平成30年に交野市は大阪北部地震に見舞われました。市民の皆様は命に関わる被害はありませんでしたが、地震による被害も非常に身近なものであると痛感したところです。

市といたしましても、災害そのものをくいとめる、あるいは被害を抑える防災対策に努めているところですが、命や財産を守るためには、私たちひとりひとりが自然災害と向き合い、防災知識を高め、あらかじめ備える“減災”の取り組みが重要です。

令和2年に配布しました総合防災マップでは、本市の中心を流れる天野川とその支流等の「洪水」、豪雨により河川や下水の排水能力を超えてしまった際におこる「内水」、市域の半分が山地であるまちとして、最も警戒を要する「土砂災害」のハザードマップを掲載しました。今回の令和5年の改訂では、新たにため池のハザードマップを追加しました。お住まいの場所や事業所のある地域が、どのような災害リスクを抱えているかをあらかじめ知ることは、災害対策の中で最初の一步であり、最も重要な対策になります。

防災・減災対策は、市だけで出来ることは限られており、市民の皆様のご理解・ご協力が何よりも大切です。災害からご自身やご家族、従業員を守り、また、いざという時に地域の皆様で互いに助け合うことができますよう、この一冊をご活用いただければ幸いです。

令和5年9月

Contents

改訂にあたって

交野市で想定される災害の種類	1
震度階級表・地震の備え	2
生駒断層帯地震	
震度分布図	4
活断層図	5
南海トラフ巨大地震	
震度分布図	6
液状化可能性図	7
水害について(洪水・内水)	8
土砂災害について	10
警戒レベルを用いた避難指示	12
避難行動判定フロー	13
避難場所・避難所一覧	14
ハザードマップ	16
医療機関マップ	64
避難行動要支援	68
地域防災活動	69
防災情報	70
地震の際のトイレ・耐震診断	72
持ち出し品チェック	73
わが家の防災メモ	

交野市で想定される災害の種類



地震 (P2～7)

- 生駒断層帯地震(直下型)
- 南海トラフ巨大地震(海溝型)

日本は地震が多い国であり、いつどこで大規模地震が発生してもおかしくありません。

皆様に地震の災害リスクを理解していただくための情報を紹介するとともに、生駒断層帯地震及び南海トラフ巨大地震を紹介しています。また、これらの避けられない地震災害への備えもあわせて紹介していますので、事前の確認をお願いします。



水害 (P8～9)

- 洪水(天野川・北川・前川・穂谷川・たち川)
- 内水

雨が多い日本では、毎年、全国のどこかで大雨による河川の氾濫などにより、個人の住宅や資産、公共施設などに損害を与え、時には人命を奪う「水害」が起こっています。

全国にある1,741市区町村(令和元年末)のうち、平成23年から令和2年までの10年間に一度も河川の氾濫などによる水害が起きていないのは、わずか56市区町村(3.2%)に過ぎません。水害は身近な災害のひとつだといえます。

水害発生を目安や危険箇所、水害での避難方法等を紹介しています。

出典元:政府広報オンライン「水害はどのくらい起きているの?」



土砂災害 (P10～11)

- がけ崩れ、土石流、地すべり(土砂災害(特別)警戒区域)

台風や大雨等による「土砂災害」にご注意ください。傾斜が急なところでは、台風や大雨等が引き金となって、がけ崩れや土石流、地すべりなどによる土砂災害が発生しやすい環境にあります。土砂災害は一瞬にして、尊い生命や家屋などの貴重な財産を奪うなど、甚大な被害をもたらします。土砂災害の被害を防ぐためには、一人ひとりが土砂災害から身を守るように備えておくことが重要です。そのために知っておくべきポイントを紹介いたします。

